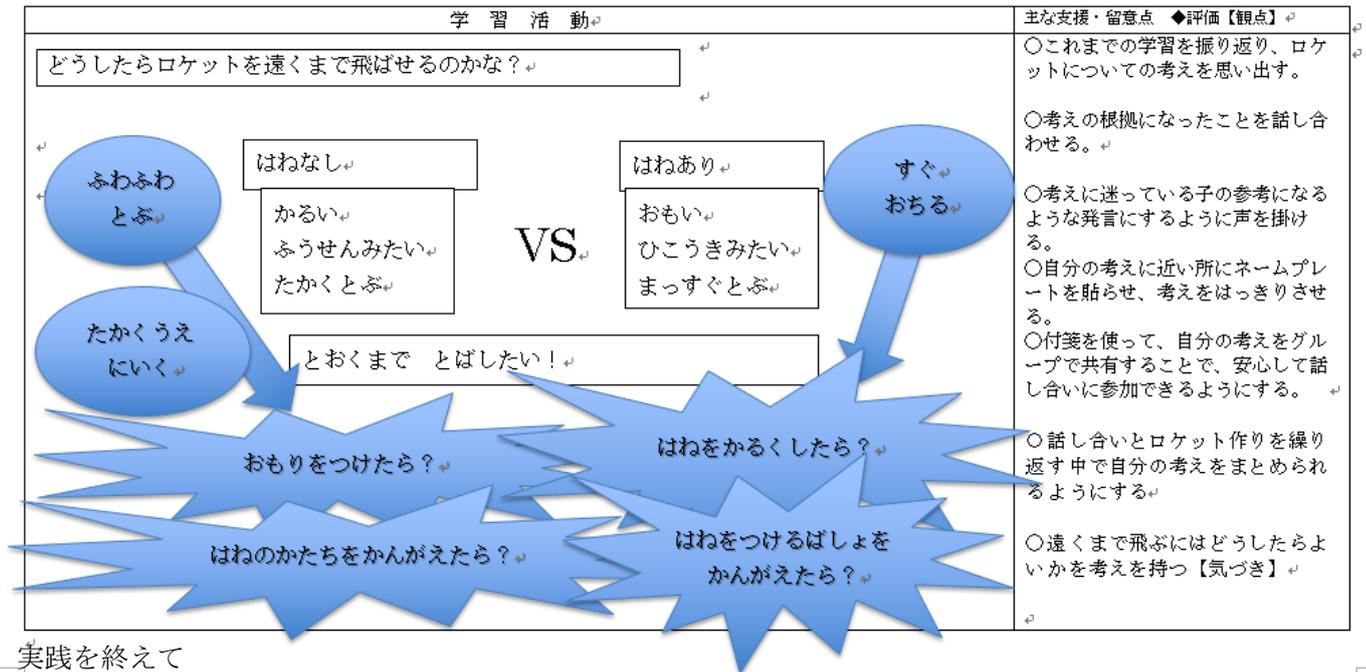


## 2 本時について

- (1) 本時目標 ロケットを遠くまで飛ばすために、できることを考えて、ロケットを作ろうとすることができる。
- (2) 本時展開



## 3 実践を終えて

### (1) 単元構想について

コロナ禍で密を避けながら、「子どもたちにとって、意味ある活動は何か？」そして、「子どもたちが、自分たちからやってみたくて学びが深まる活動は何か？」と考えながら、単元構想を練り上げた。

まず、身近な物で遊びを考えていくことにした。おりがみでコマを作ったり、紙ひこうきを作ったりした。クラスの子の多くは、「どうやったらうまく飛ぶのだろう？」と思考し始め、紙ひこうきでは紙の厚さや羽の大きさ、本体の形（細長い方が遠くまで飛ぶ）など、話し合いながら学習を進めることができた。そして、「もっと大きい物で飛ばしたい！」と「傘ぶくろひこうき」に挑戦することになった。

子どもの活動や思考の流れから、単元構想を考えられたことは成果である。

しかし、子どもの思考は、行きつ戻りつしながら、よりよい物を作ろうと考えようとする。また、友だちの話を聞いて考えたことと、自分に起こった事象が、うまく結びつかず堂々巡りをするとところもあった。言葉と事象を丁寧に確認していく必要があると思った。

### (2) 本時について

意欲的には取り組めた。

しかし、課題は、「どの部分を、どの時点で焦点化し、話し合わせるか。」と細分化した思考を教師の側で持っておくべきであると思った。本時では、「羽がある・なし」で話し合わせようと思っていたが、「羽がある」の中に「羽の位置」「羽の形」「羽の枚数」「羽の大きさ」など様々な要因があるため、話が右往左往するところがあった。そこで、「①一人で、羽あり・羽無し ②3人ぐらいのグループで羽あり・羽なし ③全体で競争」というように、明確に分かる活動→思考→話し合い→活動・・・と少しずつの活動と思考を繰り返すことができるような時間づくりや場作りが必要であった。そうすることで、自分の考えをもち、友だちと考えを交流したいと言う気持ちが芽生えてくると考える。

### (3) 本時後について

本時後、パラシュート・どんぐりカー・風車など作って遊ぶ活動を繰り返してきた。

「風車をつくろう」では、自分たちで、まず、折り紙で作り、「薄い・厚い」にこだわりを持って作り、次に、材質「折り紙・紙コップ」に焦点を変え、「固いから風を受けることができる」とか「やわらかいと風に飛ばされそうになってしまう」「固くて薄いと軽くなるからいいと思う」と活動したことで思考し、同じ土台で話し合うことができるようになってきた。そして、羽の枚数→羽の向き→風の強さと順序立てて話し合いが進められるようになってきた。また、「〇〇さんと同じで・・・。」という発言が多くなり、言われた子も、話している子も、聴いている子も、「〇〇さんと同じなんだ（笑顔）」と子どもたちの笑顔が増えてきている。「ひびき合う」ということは、照れた笑顔や共有する喜びを感じることで改めて感じた。

### (4) 成果と課題

6月の分散登校から始まり、規制を強いられた中での教育活動であったが、その中でも子どもたちは、目を輝かせながら学習に取り組み、自分の考えを自分の言葉でノートに書いたり、発言したりすることができるようになってきた。今後は、「友だちと考えをつなげて、深めたり広めたりできるようにしていきたい。